

平成 27 年度継続課題に係る継続評価書 (平成 25 年度以降採択課題向け)

研究機関 : (株)デンソー、パナソニック(株)、パイオニア(株)、電気通信大学

研究開発課題 : ICT を活用した次世代 ITS の確立 課題 I 自動走行システムに必要な車車間通信・路車間通信技術の開発

研究開発期間 : 平成 26 ～ 28 年度

代表研究責任者 : 難波 秀彰

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 19 点／ 25 点中)

(総論)

継続提案書には、採択時の指摘事項を反映して、研究開発の方法が具体的に記述されており、研究開発もおおむね予定通り進行していると判断される。今後は研究開発における協調等を明確にし、実験結果の適切な分析と問題点の抽出の上、次年度の研究を進めていくことを期待する。

(コメント)

- 現時点で実験中のものが多くあるが、研究開発はおおむね予定通り進行していると判断される。実験結果の適切な分析と問題点の抽出の上次年度の研究を進めていくことを期待する。
- 課題 a「車車路車協調システムの通信に関する研究開発」、課題 b「車車路車協調システムのサービスに関する研究開発」、課題 c「普及促進に関する研究開発」の既存のインフラを中心とした研究開発と課題 d「自動走行の通信に関する研究開発」の研究開発の関連性や今後の研究開発における協調等をより明確にしていく必要があると考えられる。
- 報告書において、採択時の指摘事項を反映して、研究開発の方法を具体的に記述している。また本研究開発課題の特徴が明確になるように留意して報告している。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

救急車や工事車両等の非一般車両への応用を目標として、実用環境における実験とシミュレーションの両方を用いて、通信性能を評価しており、研究開発はおおむね予定通り進行していると判断される。

(コメント)

- 現時点で実験中のものが多くあるが、研究開発はおおむね予定通り進行していると判断される。実験結果の適切な分析と問題点の抽出の上次年度の研究を進めていくことを期待する。
- 実用環境における実験とシミュレーションの両方を用いて、通信性能を評価した。
- 救急車や工事車両等の非一般車両への応用を目標として、ドライバー行動・道路条件の調査を実施した。
- 実際の交差点での実験の問題をテストコース実験で補完することは望ましい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

当該年度における研究資金については、適切に執行されていると考えられる。

(コメント)

- 適切に執行されていると考えられる。
- 適切に執行されている。
- とくに問題はない。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

自動走行実現に向けて具体的な課題解決手法を検討したほか、新規テーマを追加する等、意欲的な展開が期待されると評価する。一方、公共交通アプリの特徴はやや曖昧であり、より具体化することが望まれる。

(コメント)

- 適切に行われていると考えられる。
- 自動走行実現に向けて具体的な課題解決手法を検討した。
- 新規テーマを追加する等、意欲的な展開が期待される。一方、公共交通アプリの特徴はやや曖昧であり、より具体化することが望まれる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

平成27年度の研究開発実施計画に整合するように、CACC (Cooperative Adaptive Cruise Control)技術、およびPTPS (公共車両優先システム)を含むように修正している。また、当初計画の予算を圧縮できるとのことであり、費用対効果の改善も見込まれる。

(コメント)

- 適切であると考えられる。
- 平成27年度の研究開発実施計画に整合するように、CACC (Cooperative Adaptive Cruise Control)技術、およびPTPS (公共車両優先システム)を含むように修正している。
- 当初計画の予算を圧縮できるとのことであり、費用対効果の改善が期待できる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

ビジネスプロデューサ会議を開催し、北米における研究開発、さらに ISO の国際標準化の動向を調査して、本研究課題に反映するように工夫している。ただし、大学と企業間の研究開発における連携については、より明確にすることが望ましい。

(コメント)

- 適切である。
- 大学と企業間の研究開発における連携をより明確にしていってほしい。
- ビジネスプロデューサ会議を開催し、北米における研究開発、さらに ISO の国際標準化の動向を調査して、本研究課題に反映するように工夫している。
- とくに問題はない。